

出穂から刈取り直前までの1か月以上は ①乾かさない・②ずっと溜めない・③すぐ落とさない

玄米外形の発達

(出穂後5日)

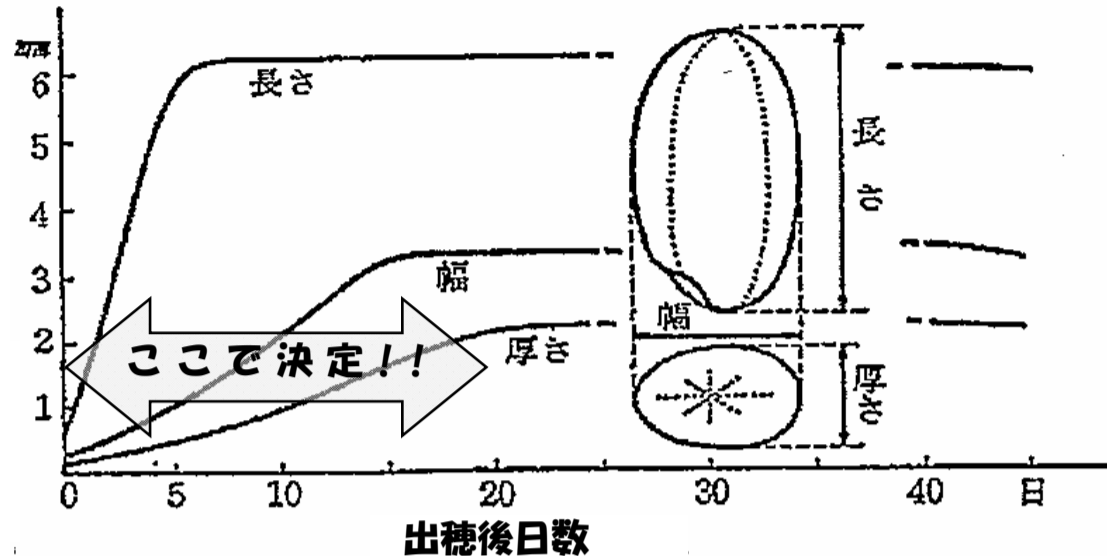
玄米の**長さ**が決定!

(出穂後15日)

玄米の**幅**が決定!

(出穂後20日)

玄米の**厚さ**が決定!



登熟の必須要素

- ★日射量 養分やデンプンを生成
- ★気温 20℃～25℃がベスト! 高すぎると稲自身の消耗が増える
- ★土壌養分 N(窒素)だけでなく、K(カリ)も登熟向上に必要
- ★灌水量

出穂期以降の人為的な
管理はムスカシイ...

上図のように、出穂後20日間は特に要注意!!

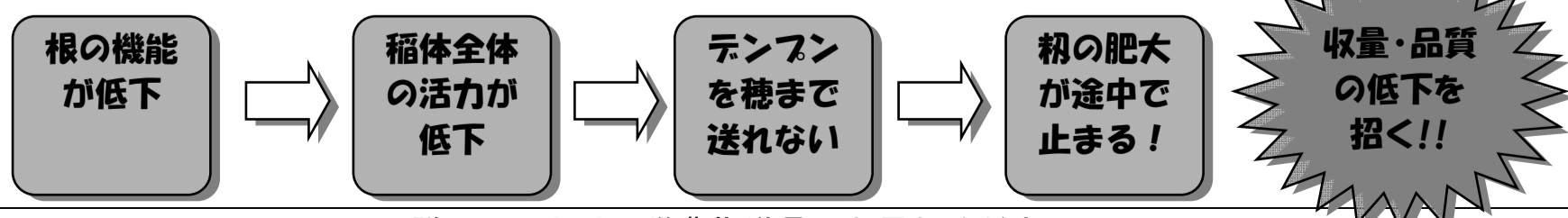
今からできること
それは...

稲は1日5トン
(10aあたり)
もの水を必要
とします!!

こまめな通水管理で乳白粒・胴割粒を防止しよう!!

- 収穫5日前まで、間断通水を行きましょう。
- 3日おきの間断通水で田面を乾かさないことが重要です。
- 水はけの悪い圃場では常時湛水は避けて下さい。
- 夜間通水で高夜温による稲体の消耗を抑える。
- 台風・フェーン現象時には、事前に入水して下さい。

落水が早すぎると...



詳しいことは、営農指導員にお尋ねください。

水稻の「いもち病」に注意！！

■葉いもちが発生すると、穂いもちの発生に繋がります

- ・「葉いもち」、「穂いもち」のどちらに感染しても収量・品質低下に繋がります

■圃場を良く見回り、葉いもちを早期に発見しましょう

- (1) 常発地や中山間地、川の近くなど、葉面が湿っている時間が長くなる圃場を重点に見回りましょう
- (2) 予防剤を施用していない圃場では特に注意が必要です
- (3) 予防剤を施用してあっても、いもち病に弱い品種では注意が必要です
⇒特に注意を要する品種：コシヒカリ、カグラモチ、ひやくまん穀、石川酒68号

■葉いもちを発見したら直ちに防除しましょう

- (1) ブラシン粉剤DL 3～4kg/10a



「斑点米カメムシ」に注意！！

■7月23日カメムシ調査（本田内）結果

- ・調査地点数：96地点（能美根上地区 34地点 小松地区 65地点）
- ・1地点あたり平均頭数：5.3頭（前年の約1.2倍）
- ・中山間地や植林地では、比較的大型の飛翔性カメムシであるクモヘリカメムシ（写真）の生息数が増加し、生息分布も拡大しています。

